

令和6年度地域活性化対策特別委員会県外視察の概要

1 参加委員

平山 尚道（委員長）、近藤 諭（副委員長）、福山 博史、寺井 正邇、立川 了大、仁木 啓人、梶原 一哉、岡田 晋

2 視察日程及び視察箇所

視察日程	視 察 箇 所
8月6日（火）	大分県庁（大分県大分市）
8月7日（水）	宇佐市役所（大分県宇佐市）
	株式会社タカミヤ(北九州釣りいこか倶楽部)(福岡県北九州市)

3 調査目的及び視察概要

(1) 大分県庁

(調査目的)

東九州自動車道の延伸や開通に伴い、大分県内では、製造関連の企業立地の増加や、新たな物流ルートの構築、観光客の増加など、さまざまな分野で地域活性化の効果が現れている。

また、大分県では、東九州新幹線や豊予海峡ルートを含む広域の交通ネットワーク構想について、整備効果や検討課題などを考えるため、有識者からなる研究会を立ち上げ、今年2月に報告書が提出されたところであり、県では、報告書に基づき、構想実現に向けた理解促進や機運醸成、関係機関等との連携強化に取り組んでいる。

これらを踏まえ、東九州自動車道の延伸や開通に伴う沿線地域の地域活性化への波及効果及び大分県広域交通ネットワーク構想について調査する。

(視察概要)

東九州自動車道沿線の現状と課題、また、大分県広域交通ネットワーク構想実現への取組について説明を受けた後、意見交換を行いました。



(2) 宇佐市役所

(調査目的)

大分県北部に位置する宇佐市は、宝島社発行の月刊誌「田舎暮らしの本」における「2024年版住みたい田舎ベストランキング」(人口5万人以上10万人未満の市)において、シニア部門全国1位かつ総合部門、若者世代・単身者部門、子育て世代部門2位であり、定住支援に対する補助金制度など手厚い移住支援策を背景に、幅広い年代から人気を集めている。

これらを踏まえ、移住・定住支援の取組について調査する。

(視察概要)

宇佐市における、移住時から移住後も世代を超えた切れ目のない移住・定住支援策について説明を受けた後、意見交換を行いました。



(3) 株式会社タカミヤ（北九州釣りいこか倶楽部）

(調査目的)

コロナ禍でブームが再来した「釣り」は、移住やワーケーションの要素としても注目されているが、北九州市では、2018年からいち早く「釣り」による地域活性化に取り組んでいる。

北九州市内に本社を置く株式会社タカミヤは北九州市からの要請を受け、釣りによる地域活性化事業「北九州釣りいこか倶楽部」を立ち上げ、「釣って終わり」ではない、釣りのサポートから調理、宿泊までのパッケージプランを提供するほか、地元企業や団体とのコラボ事業などを展開している。

これらを踏まえ、釣りを通じた地域活性化（北九州釣りいこか倶楽部）の取組について調査する。

(視察概要)

北九州釣りいこか倶楽部の取組について説明を受けた後、意見交換を行いました。

